

島嶼産業研究会

会 報

第 6 号 2017 年 12 月 6 日 (水)

【発行】島嶼産業研究会 事務局
〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20
鹿児島大学水産学部内
k9650024@fish.kagoshima-u.ac.jp
TEL 099-286-4291
FAX 099-286-4297
<http://international-islands.jimdo.com/>

ごあいさつ

早いもので 2017 年も残すところ僅かとなりました。寒さも厳しくなりつつありますが、お変わりありませんでしょうか。

12 月 2 日に第 5 回勉強会を鹿児島大学において開催しました。音楽による島づくりという大変ユニークな活動をされている徳田様、麓様よりご講演頂きました。フロアからたくさんの質問もありました。大学とのコラボレーションも検討されているようで、今後の展開が楽しみです。

また、2018 年 2 月 17 日 (土)、種子島において第 6 回勉強会「次世代の種子島の水産業を考える」を開催いたします。提供される話題につきましては、順次、ホームページに掲載する予定です。

さて、島嶼産業研究会では年 1 回、会誌「国際島嶼産業研究」を発行いたします。皆様方の活動を是非、お寄せください。原稿の締め切りは 2 月 23 日 (金) を予定しております。なお、投稿規定、執筆要領につきましてはホームページに掲載しておりますので、ご一読ください。どうぞよろしくお願いいたします。

島嶼産業研究会 事務局

1. 会誌「国際島嶼産業研究」原稿の募集について

島嶼産業研究会では年 1 回、会誌「国際島嶼産業研究」を発行いたします。論文から活動報告まで多様なジャンルを用意しております。1 年の活動の記録を残しませんか。

島嶼産業研究会は近い将来、学術研究団体への登録を目指しております。登録されれば、遡って、いわゆる業績としてカウントされます。投稿規定、執筆要領につきましてはホームページに詳述しておりますので、ご一読ください。

萌芽期の会誌ではありますが、皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

2. 第6回・勉強会のお知らせ

2018年最初の勉強会を種子島において開催いたします。テーマは「次世代の種子島の水産業を考える～新たなビジネスモデルの構築に向けて～」です。鹿児島大学水産学部・江幡恵吾准教授のコーディネーター、西之表市、種子島漁協、鹿児島大学かごしまCOCセンターとの共催を予定しております。皆様と種子島でお会いできるのを楽しみにしております。

<話題>予定

1. 種子島の水産業の概要（鹿児島県熊毛支庁）
2. 種子島の各集落の活動（西之表市）
3. 海の生態（トコブシ漁場調査報告）
4. 海底に眠る未利用資源
5. 魚を獲る技術（かご漁具の新規導入、底曳網試験操業）
6. 魚の美味しさを保つ技術
7. 島の魚の流通・販路拡大
8. 島の魅力を発信するには
9. 総合討論：種子島漁協・組合長、若手漁業者ほか

3. 第5回・勉強会、開催報告

2017年12月2日、鹿児島大学国際島嶼教育研究センターにおいて、第5回研究会「音楽と島の未来」を開催しました。鹿児島大学法文学部・西村知教授のコーディネーターのもと、徳田健一郎様（TTM DJEMBE ACADEMY MISHIMA スタジオ SOUND HILL 代表、三島村出身）、麓賢吾様（有限会社アーマイナープロジェクト 代表取締役/NPO 法人ディ 代表理事、奄美大島出身）より音楽活動を通じた島づくり・人づくりについてご紹介いただきました。

徳田様より、ジャンベという音楽を通じて、三島村の人に三島村を大切に思っていて欲しい、という思いから活動を展開していること。ビジネスとして成立させるのは容易ではないが、経済的波及効果だけではなく、情操教育、文化的価値、豊かな暮らしといった目に見えない価値を創造しているのではないかとの紹介もありました。人づくりに役立っているのかよく分からないが（実感がないが）、郷土愛を育むことができたらとの思いの紹介がありました。

麓様より、音楽活動のイベントは、点としては成り立つが、その後の人々の行動をかえるには至らないというジレンマから、島にもメディアがあれば...という思いをもとにラジオ局を開局した経緯について紹介がありました。学校教育の場でも島唄が多用されるようになり、子どもだけではなく、先生の意識も変化してきたのではないかと、（アンケートの結果より）島に生まれたことに自信を持つようになったと答える子どもの割合が高まっていることなどの紹介がありました。歌を通じて歌のみを伝えるのではなく、そのルーツ、それが生まれた集落についても伝えていきたいとの意気込みが語られました。

その後、参加者からたくさんの質問があり、時間一杯まで議論がもりあがりました。さらに、ジャンベと島唄、そして大学とのコラボレーションの可能性について詰めることとなりました。

貴重なご講演、さらには勉強会への積極的な参加、ありがとうございました。



勉強会の様子



徳田様のご講演



ジャンベの独特な音にうっとり



麓様のご講演